



2021年11月1日
沖縄電力株式会社

宮古第二発電所6,7号機の営業運転開始について

当社は、宮古島系統における電力需要増および今後予定されている老朽化発電設備廃止後の供給力確保に向け、2019年10月より宮古第二発電所6,7号機の増設工事を進め、10月29日に営業運転を開始しましたのでお知らせします。

沖縄本島を除く10の離島系統では、主に重油によるディーゼル機関により電力を供給しておりますが、今回営業運転を開始した6,7号機(発電出力各12,000kW)は、デュアルフューエル機関※を採用し、これまでの重油に加えて天然ガスでも発電が可能となります。

今後、宮古島系統においては、老朽化発電設備廃止までの間、両機を含め合計11台の発電設備(総設備容量99,500kW)で供給を担うこととなります。

当社は、沖縄のエネルギーを支える事業者として、引き続き沖縄地域における安定供給に取り組んでまいります。

※二元燃料(重油専焼、ガス専焼)で運用可能なエンジン

<6,7号機の概要>

機 関 種 類：V型単動4サイクル過給機・空気冷却器付デュアルフューエル機関

機 関 型 式：川崎-MAN 12V51/60DF (メーカー：川崎重工業㈱)

発電機型式：NTAKL-RCP (メーカー：西芝電機㈱)

出 力：各12,000kW

回 転 数：514rpm

燃料の種類：C重油、天然ガス

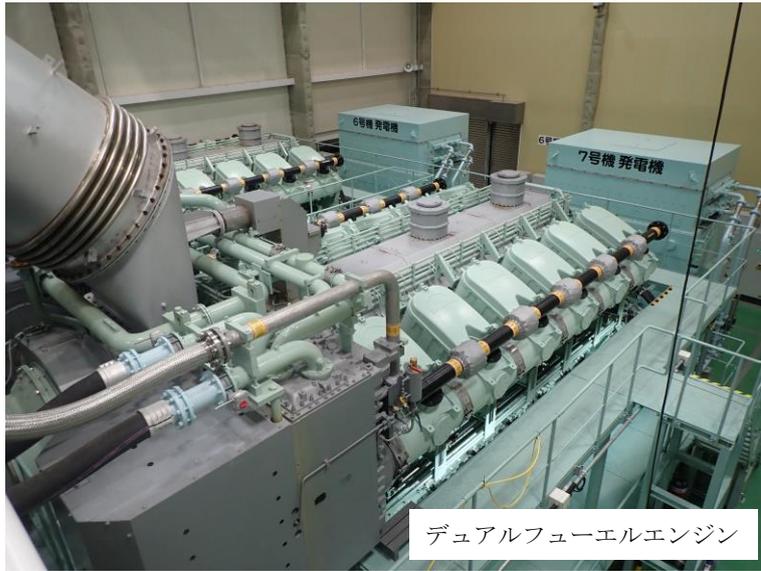
<デュアルフューエル機関導入の背景>

離島で天然ガスを利用する環境が整った場合に、離島の環境対策やエネルギーセキュリティを高める観点から、宮古第二発電所6,7号機には重油と天然ガスの両方を活用できるデュアルフューエル機関を採用。同機関の採用は事業用発電設備としては国内初となる。

なお、宮古島を含め、離島における天然ガスの利用は検討段階であり、利用時期は未定。

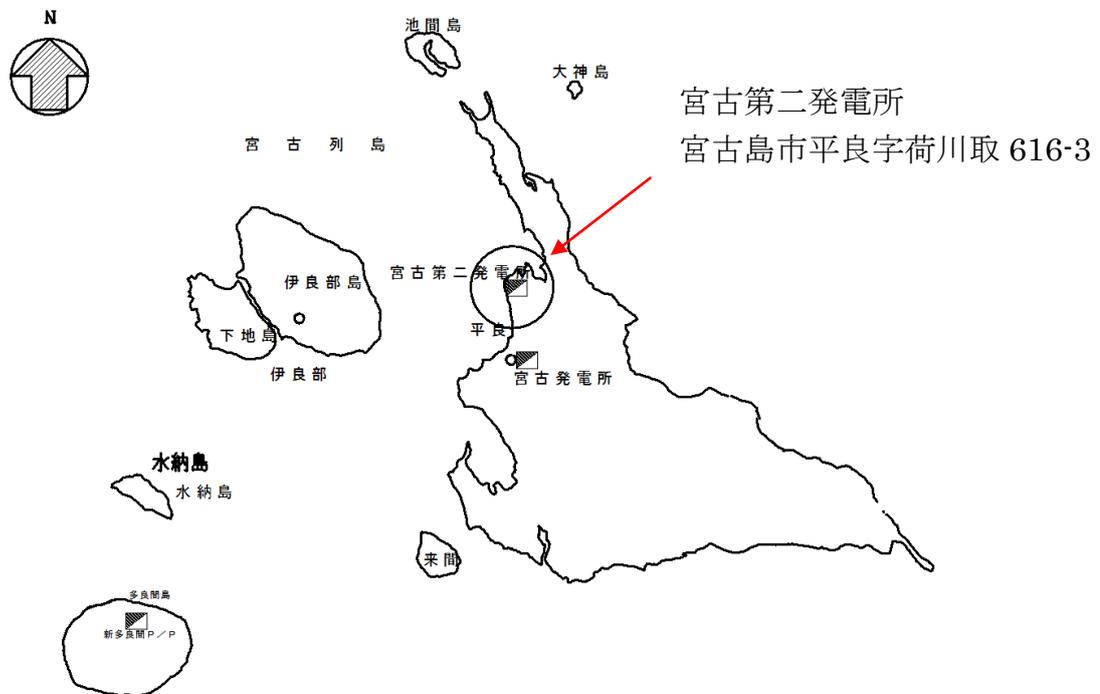
以 上

<宮古第二発電所 6, 7号機写真>



<宮古島の概要>

- ・沖縄本島の南西約 300km に位置し、宮古島・池間島・来間島・大神島・伊良部島・下地島の 6 島からなる。
- ・面積：約 204km²
- ・世帯数：約 28,750 世帯（令和 3 年 9 月末現在）
- ・人口：55,488 人（令和 3 年 9 月末現在）
〔引用：宮古島市ホームページ〕
- ・最大電力：63,997kW（令和 3 年度）



以上